

回鶻のみに止まらずして、遂に唐にも及び、大曆三年には回鶻人の請によりて、唐の内地にも其の寺院が建てられ、次で大曆六年には荆^(湖)揚^(江)洪^(西)越^(浙)等の諸地方に及びても、之が建立せられしこと、唐會要^(二一九)及び佛祖統記に明記せらるゝ所なり、唐は始め西方吐火羅より傳へたる此の教に對しては、排斥の態度を執り、開元二十年には詔を出して、漢人の之を信仰するを禁^(三三〇)じたりしにも拘はらず、遂に大曆以後は回鶻の勢力に壓せられて、之を認めざるを得ざるに至りしものなりとす、今や烏介可汗の敗北に及び、唐が此等の摩尼教僧侶及び回鶻人を處置して諸道に配付し、其の財産を收め、又摩尼教の信仰^(三三一)を禁ずるに至りしは、至德以來唐が初めて其の國に在る回鶻人に對して執るを得たる高壓的手段なりとす。

偕て會昌三年正月振武及び殺胡山^(三三二)に大敗したる可汗は舊唐書迴紇傳に據れば

烏介驚走東北約四百里外、依和解室韋下營

と曰ひ、新唐書回鶻傳には

可汗收所餘、往依黑車子

と記さる、舊唐書が可汗の逃れ投じたる部族を今の Buyur nor に注ぐ喀爾喀河の上源地、若しくは其の南に接近したる地方に住みたるべき和解室韋とせることの誤謬に外ならずして、新唐書に黑車子とせるに據るべきことは、既に白鳥博士^(三三三)の考證を經、又通鑑會昌三年正月の條にも註記したる所なり、而して此等の考の確なるべきは、從來未だ引用せられざるが如きも、同じ舊唐書中にも本紀及び張仲武傳^(三三四)には新唐書回鶻傳・黠戛斯傳等に見ゆると同じく、可汗が黑車子に投じたることを記し、和解室韋に依りたることは、只舊唐書迴紇傳のみに於て認めらるゝに過